NT-2085 pro ユーザーマニュアル

リリース **v1.1.1**

2026-09-02

目次

1 システム設定 **4**
1.1 始める 4
1.2 プロンプト出力 6

2 デバイスの機能設定 **11**
2.1 照明と照準 11

3 トリガー設定 **14**
3.1 読取モード 14

4 インターフェース設定 **23**
4.1 通信方式 23
4.2 命令 28
4.3 パケットフォーマット 30

5 キーボード設定 **30**
5.1 キーボードのレイアウト 30
5.2 キーボードの種類 34
5.3 キーボードの大文字と小文字の変換 34
5.4 キーボード文字送信時間間隔 35
5.5 キーボード文字送信間隔のクイック設定 36
5.6 キーボード制御文字出力モード 36

6 データ編集 **37**
6.1 バーコード ID 37
6.2 終端文字 38
6.3 接頭語 38
6.4 サフィックス 40
6.5 バーコードタイプに基づいてプレフィックスを追加 41
6.6 バーコードタイプに基づいてサフィックスを追加 44
6.7 固定文字を非表示にする 46
6.8 長さに基づいてバーコードデータを保持する 48
6.9 長さに基づいてバーコードデータを非表示にする 50
6.10 バーコードタイプに基づいて任意の長さのバーコードデータを非表示にする . . 52
6.11 バーコードタイプに基づいて、バーコードの先頭部にある任意の長さのデータを非表示にします 55
6.12 バーコードタイプに応じて、バーコードの末尾にある任意の長さのデータを非表示にします。 56
6.13 カスタムデータを挿入する 58
6.14 データの置き換え 60
6.15 改行と復帰 62
6.16 URL の有効/無効 62
6.17 請求書発行機能 63
6.18 GS1 ルールが有効になりました 64

7 キャラクター設定 **64**
7.1 文字セット 64

8 バーコード設定 **65**
8.1 バーコードのグローバル操作 65

8.2 Code 128 . . . 71
8.3 UCC/EAN-128/GS1-128 . . . 73
8.4 EAN-8 . . . 75
8.5 EAN-13 . . . 77
8.6 ISSN . . . 78
8.7 ISBN . . . 79
8.8 UPC-E . . . 79
8.9 UPC-A . . . 82
8.10 ITF25 . . . 84
8.11 NEC25/COOP25 . . . 87
8.12 MATRIX25 . . . 90
8.13 IND25 . . . 93
8.14 STD25 . . . 95
8.15 Code 39 . . . 97
8.16 Codabar . . . 101
8.17 Code 93 . . . 105
8.18 Code 11 . . . 107
8.19 MSI Plessey . . . 110
8.20 GS1 DataBar/RSS . . . 114
8.21 Composite Code . . . 114
8.22 TELEPEN . . . 114
8.23 TRIOPTIC . . . 115
8.24 HONG KONG 2 OF 5/CHINA POST . . . 115
8.25 韓国郵便/韓国郵便 . . . 115
8.26 PDF417 . . . 116
8.27 QR Code . . . 117
8.28 Data Matrix (DM) . . . 118
8.29 Aztec Code . . . 120

9 付録 **120**
9.1 数字設定コード . . . 120
9.2 Code ID . . . 122
9.3 AIM ID . . . 123
9.4 ASCII コード比較表 . . . 124
9.5 バーコードタイプ . . . 127

1 システム設定

1.1 始める

マニュアルの説明

このマニュアルには、シンボル体系の設定、機能の設定（照明、キーボードの種類、工場出荷時設定へのリセットなど）、およびインターフェイスの設定が含まれています。必要な機能を変更する必要がある場合は、以下の設定コードに従って構成をスキャンするだけです。(*)が付いているものはすべて工場出荷時の既定値を示します。

バージョン情報

ホストが現在のデバイスのバージョン情報をすぐに読み取るために、「バージョン情報」を読み取ることで確認できます。

バージョン情報

コードスイッチを設定する

設定コード機能を ON にすると、設定コードを読み取ることで読取モジュールのパラメータを設定することができます。

注釈

設定コードを通じて設定を変更すると、現在のフラグビットリスト全体がメモリに保存されます。つまり、シリアルポートを通じて設定されたが保存されていない設定も一緒に保存されます。

無効にする

* 有効にする

コード内容の出力を設定します

設定コード内容を出力するかどうかは、以下の設定コードをスキャンすることで読取モジュールのパラメータを設定できます。

* 無効にする

有効にする

ユーザーの既定設定

現在の設定をユーザーの既定として保存する

ユーザーの工場出荷時の既定設定に戻す

ユーザーは、頻繁に使用する構成をユーザーの既定設定として保存できます。「現在の設定をユーザー既定設定として保存」をスキャンすると、デバイスの現在の設定情報をユーザー既定設定情報として保存できます。この操作の後、新しい構成情報が元のユーザーの既定設定情報を置き換えます。「ユーザー既定設定に戻す」をスキャンすると、読取モジュールをユーザー既定設定に切り替えることができます。

電力制御

スリープモード

このパラメータはモジュールの電力モードを決定します。スリープモードでは、読取モジュールは可能な限りスリープ状態になります（ウェイクアップコマンドで復帰可能）

* スリープモード

連続動作モード

連続動作モードでは、読取モジュールは、デコードを試行するたびに起動したままになります。

連続動作モード

1.2 プロンプト出力

通知音関連

ブザーの種類

ブザーをパッシブまたはアクティブブザーとして設定するには、次の設定コードを読み取ります。

*受け身

アクティブ

ボリュームサイズ

ユーザーは、次の設定コードを読み取ることで、アプリケーション環境や個人の習慣に応じてブザーの音量を調整できます。

ミュート	ベース
アルト	* 高音

電源投入時のビープ音

無効にする	* 有効にする

設定コード通知音

無効にする	* 有効にする

デコードトーン

無効にする	* 有効にする

通知音周波数のデコード

ユーザーが使用するブザーの共振周波数は既定の周波数と異なる場合があります。以下の設定コードを読み取ることで、デコード通知音の周波数を調整できます。既定値は 2700Hz です。

「ブザー周波数」設定コードをスキャンします。

ブザー周波数

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、周波数が 1500Hz の場合、1、5、0、0 をスイープします。周波数が 2700Hz の場合、スイープ 2、7、0、0

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

デコード通知音のクイック設定

1000Hz	1500Hz
2000Hz	2500Hz
*2700Hz	3000Hz
3500Hz	

デコードトーン持続時間

ユーザーは必要に応じてデコード通知音の長さを設定できます。既定値は 50 ミリ秒です。

「ビープ音の長さ」設定コードをスキャンします

通知音の長さ

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、継続時間が 50ms の場合、5,0 をスキャンします。期間が 200ms の場合、2,0,0 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

デコードトーンの継続時間を素早く設定

30ms	*50 ミリ秒
70ms	100ms
200ms	300ms

2 デバイスの機能設定

2.1 照明と照準

照明

この照明は撮影や読み取りの補助照明として使用でき、ビームが読み取り対象を照らすため、読み取り性能と弱い周囲光への適応能力が向上します。ユーザーは、アプリケーション環境に応じて次のいずれかの状態に設定できます。

通常照明（初期設定）：撮影時と読み取り時に照明が点灯し、それ以外のときは消灯します。

照明は常にオンです。読取モジュールがオンになった後も照明は点灯し続けます。

点灯しない：いかなる状況でもライトが点灯しません。

* 通常の照明

照明なし

照明は常時点灯

標的

投影された照準ビームは、ユーザーが読書のために撮影するときに最適な読書距離を見つけるのに役立ちます。アプリケーション環境に応じて、ユーザーは次のことができます。

以下のモードのいずれかを選択します。

通常照準 (既定設定): 読取モジュールは、射撃時と読み取り時に照準ビームのみを投影します。

照準は常にオン: 読取モジュールの電源がオンになった後も、照準ビームを投影し続けます。

照準なし: 照準ビームはいかなる状況でも消えます。

* ノーマルを目指します

狙いがない

一定の光を目指す

リマインダーライト関連

警報灯機能の種類

* デコードのヒント

電源プロンプト

デコード成功インジケーターライト

無効にする

* 有効にする

デコード成功インジケータ調光方式

モード 0: 電源投入後長時間オフ、デコードが成功するとオン、指定された時間オンになった後オフ。

方法 1: 電源投入後は常にオン、デコードが成功するとオフ、指定した時間が経過するとオンになります。

* モード 0

方法 1

デコードステータス NR 出力

NR は No Read の略です。トリガーボタンを放す前に、タイムアウト期間内にバーコードをデコードできない場合は、「NR」メッセージの出力が許可されます。この機能を無効にすると、バーコードをデコードできなかった場合でもホストにメッセージを出力できません。

* 無効にする	有効にする

3 トリガー設定

3.1 読取モード

一般的な読み取りモード

キーホールド

キーホールドモードに設定し、キーを押すと読み取りが開始され、キーを放すと読み取りが終了します。読み取りに成功するか、読み取り時間が 1 回の読み取り時間を超えると、読み取りは終了します。

キーホールド

シングルボタントリガー

シングルボタントリガーモードに設定します。ボタンを押して読み取りを開始します。ボタンを放しても読み取りは停止しません。読み取りが成功した場合、または読み取りが 1 回の読み取り時間を超えた場合、読み取りは停止します。

シングルボタントリガー

連続モード

設定完了後はトリガーする必要はありません。読取モジュールはすぐにコードの読み取りを開始します。読み取りが成功して情報が出力されるか、1 回の読み取り時間が経過すると、読み取り間隔がタイムアウトした後、次の読み取り間隔が自動的に開始されます。

連続モード

オートセンシングモード

自動検知モードでは、読取モジュールが周囲の環境の明るさを検出します。明るさが変化すると、読み取りがトリガーされます。読み取りが成功するか、読み取り時間が 1 回の読み取り時間を超えて終了します。前回の読み取りが成功したか失敗したかに関係なく、周囲の環境の明るさを検出するために再入力します。

オートセンシングモード

感度

感度とは、センサー読み取りモードでシーンの変化を検出する度合いを指します。読取モジュールは、シーンの変化の程度が要件を満たしていると判断すると、監視状態から読み取り状態に切り替わります。

* 高感度

中感度

低感度

手ぶれ補正持続時間の設定

画像安定時間とは、シーンの変化を検出する読取モジュールが、センサー読み取りモードでコードを読み取る前に画像が安定するまで待機する必要がある時間を指します。手ぶれ補正時間の設定範囲は 0～65535ms、既定値は 300ms です。

「安定化持続時間」設定コードをスキャンします。

手ぶれ補正時間

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、継続時間が 100ms の場合、1、0、0 をスキャンします。期間が 1005ms の場合、1、0、0、5 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

手ぶれ補正時間を素早く設定

100ms	200ms
*300 ミリ秒	400ms
500ms	1000ms

コマンドトリガモード

コマンドを介して読取モジュールの読み取りをトリガーすることで、コマンドを介して読み取りをアクティブに終了できます。読み取りに成功するか、読み取り時間が 1 回の読み取り時間を超えると、読み取りは終了します。特定のトリガーコマンドについては、製品の説明書情報を参照してください。

> **注釈**
>
> トリガーおよび終了コマンドはどのモードでも有効です

特別な読み取りモード

画面高速モード

このモードは特殊用途向けであり、標準仕様の製品では使用できません。画面に表示されたバーコードを高速に読み取る用途を想定しています。使用する場合は、販売元にお問い合わせください。

高速コード読み取りモード

このモードは特殊用途向けであり、標準仕様の製品では使用できません。固定式読取モジュールや読取プラットフォームなどで、各種紙媒体上のバーコードを高速に読み取る用途を想定しています。使用する場合は、販売元にお問い合わせください。

1 回の読書時間

1 回のコード読み取りの継続時間とは、読み取りをトリガーして正常に読み取ることができなかった後に許可される最長の読み取り試行時間を指します。この時間を超えると、読み取り状態が終了します。単一コード読み取り時間の範囲は 0 ～65535 ミリ秒、既定値は 5000 ミリ秒です。

一回の読み取り時間の設定

「1 回読み取り時間」設定コードをスキャンします

1 回の読書時間

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、継続時間が 100ms の場合、1、0、0 をスキャンします。期間が 1005ms の場合、1、0、0、5 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

1 回の読み取り時間を素早く設定

0ms (無限時間)	1000ms
2000ms	3000ms
*5000 ミリ秒	10000ms

同一コード遅延

連続モードおよび自動検知モードで同じバーコードが繰り返し読み取られるのを防ぐため、設定した遅延時間が経過するまで同じバーコードの読み取りを拒否できます。同一コード遅延とは、バーコードを読み取った後、設定時間内は同じバーコードを読み取らない機能です。設定時間の経過後に、再度読み取って出力できます。範囲：0〜65535 ms、既定値：0 ms。

同一コード読み取り間隔設定

「同一コード時間間隔」設定コードをスキャン

同一コード遅延

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、間隔が 100ms の場合、1、0、0 をスキャンします。間隔が 1005ms の場合、1、0、0、5 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

同一コード遅延のクイック設定

* 0 ミリ秒

100ms

300ms

500ms

1000ms

3000ms

5000ms

10000ms

無限の遅延 (同じコードを読み取らない)

読み取り間隔時間

連続モードでの 2 つの読み取り間の間隔。最後の読み取りが成功したか失敗したかに関係なく、この時間が経過すると自動的に次の読み取りに入ります。この設定は主に連続モードに適用されます

既定値：500ms、範囲: 0 ～65535ms

読み取り間隔の設定

「読み取り間隔時間」設定コードを読み取ります。

読み取り間隔時間

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、間隔が 100ms の場合、1、0、0 をスキャンします。間隔が 1005ms の場合、1、0、0、5 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

読み取り間隔時間を素早く設定

0ms	*500 ミリ秒
1000ms	2000ms
5000ms	10000ms

4 インターフェース設定

4.1 通信方式

USB HID-KBW

読取モジュールが USB ラインを使用してホストに接続されている場合、USB KBW 設定コードをスキャンすることで、読取モジュールを標準キーボード入力用に構成できます。

USB HID-KBW

USB COM

読取モジュールが USB ラインを使用してホストに接続されている場合、USB COM 設定コードをスキャンすることで、読取モジュールを仮想シリアルポート出力モードに設定できます。

USB COM

シリアルポート

シリアル通信インターフェースは、読取モジュールをホストデバイス (PC、POS など) に接続する一般的な方法です。読取モジュールがシリアルポートケーブルを使用してホストに接続されている場合、システムは既定ではシリアル通信モードに設定されます。シリアル通信インターフェイスを使用する場合、スムーズな通信と正しいコンテンツを確保するには、読取モジュールとホストデバイス間の通信パラメータ設定が完全に一致している必要があります。

TTL-232 シリアルポート

読取モジュールのシリアル通信インターフェースは TTL レベル信号 (TTL-232) を使用します。このインターフェイスは、ほとんどのシステムアーキテクチャに適応できます。システムが RS232 形式のアーキテクチャを使用する必要がある場合は、外部変換回路を追加する必要があります。

読取モジュールの既定のシリアル通信パラメータを表 2-1 に示します。

シリアル通信パラメータ表 2-1

パラメータ	既定
ボーレート	115200
チェックデジット	なし
データビット	8
ストップビット	1

ボーレート

読取モジュールが TTL-232/RS232 を通じてホストと通信する場合、伝送速度、検証、フロー制御などを含む通常の通信と同じ通信パラメータを設定する必要があります。伝送速度はボーレートで、既定のボーレートは 115200 です。

600	1200
2400	4800
9600	14400
19200	38400
57600	*115200

チェックデジット

* チェックサムなし

奇数パリティ

平

ストップビット

*1 ビット

2 名

データビット

5 人	6 ビット
7 ビット	* 8 ビット

USB HID-POS

デバイスが HID デバイスの場合、次の設定コードを読み取って、HID POS デバイスモードを選択できます。

HID POS

4.2 命令

形式

命令の構成: 命令は ASCII 文字列を使用し、次のように構成されます。

- 設定コード
- 命令の種類
- 既定のチェックサムは「99」です

命令の種類

命令の種類	命令
永続的な設定手順	設定コード +">;99’ ”
一時的なセットアップ手順	設定コード +” ^;99”
クエリコマンド	設定コード +” ?;99”
return コマンドは正しいです	設定コード +” $;99”
リターンコマンドエラー	設定コード +” *;99”

関数	送信	正しく返す	エラーリターン	述べる
セットアップ手順	>!0010201.>;99	>!0010201.$;99	>!0010201.*;99	
クエリコマンド	>!0010201.?;99	>!001020X.$;99	>!0010201.*;99	X クエリ値

例: 終了文字をキャリッジリターンとラインフィードに設定する場合、設定コードは >!0010201. です。

特別な命令には永続的な設定命令が含まれるため、頻繁に使用しないでください。工場出荷時や定期的に設定する場合は、常設設定コマンドの使用を推奨します。コードを読み込むたびに設定を変更する場合は、一時設定コマンドを使用してください。永続設定コマンドを頻繁に使用すると、バーコードリーダーの寿命に影響します。

詳細な手順については、付録 D を参照してください。

答え

有効になった後、ホストはコマンドを送信し、読取モジュールはそれに応じて応答します。

無効にする

* 有効にする

コマンド通知音

有効にすると、読取モジュールが命令を受け取ると、通知音が表示されます。

無効にする

* 有効にする

4.3 パケットフォーマット

データをデコードする

識別子	州	タイプ	長さ	バーコードタイプ	データ	チェック
0x99 0xDD		0x06				

フィールドの説明

フィールド名	サイズ	説明する
識別子	2 バイト	固定 0x99、0xDD
州	1 バイト	bit0: 永続的な変更 bit1: 繰り返し送信 bit2: コマンド通知音
タイプ	1 バイト	指導の種類
長さ	4 バイト	上位バイトが最初 (下位アドレス)、下位バイトが最後 (上位アドレス)、チェックデジットは含まれません
バーコードタイプ	1 バイト	詳細については付録 F を参照してください
データ	変数	データをデコードする
チェック	1 バイト	XOR チェック

ACK が有効な場合、ホストはデコードデータコマンドを受信し、読取モジュールに ACK を返信する必要があります。

の有効/無効

有効にすると、デコードされたデータがパケット形式で送信されます。

* 無効にする

有効にする

5 キーボード設定

5.1 キーボードのレイアウト

さまざまな国のホストが使用できるように、対応する国の「キーボード」を読み込んで設定を行うことができます。

* アメリカ	ベルギー
ブラジル、ポルトガル語 (ブラジル ABNT)	デンマーク
フィンランド	フランス
オーストリア、ドイツ	ギリシャ
ハンガリー	イタリア

ラテンアメリカ、南アメリカ諸国

オランダ

ノルウェー

ポーランド

ポルトガル

ルーマニア

ロシア

スロバキア

スペイン

スウェーデン

トゥルキエ F

トルコ語 Q

イギリス

日本

チェコ共和国

タイ K

ウクライナ

アラブ地域 101

クロアチア、スロベニア

韓国

ブルガリア

多くの国に共通する

ベトナム

5.2 キーボードの種類

仮想キーボードを有効にすると、どのキーボード言語モードでも正しい英文字、英語記号、数値データを出力できます。仮想キーボードを使用する場合は、小さいキーボードの数字キーが有効になっていることを確認する必要があります。

* QWERTY キーボード

仮想キーボード

5.3 キーボードの大文字と小文字の変換

文字変換では、英字を含むバーコードを出力する際、設定により出力結果をすべて大文字またはすべて小文字にできます。たとえば、バーコード内容が ab123dE の場合、「大文字に変換」のバーコードを読み取ると出力結果は AB123DE になり、「小文字に変換」のバーコードを読み取ると出力結果は abc123de になります。既定では大文字小文字の変換は行いません。

* 通常の出力	すべて大文字
すべて小文字	逆の場合

5.4 キーボード文字送信時間間隔

キーボード文字間の送信時間間隔を設定することで、互換性を向上させ、データ損失の可能性を減らすことができます。時間間隔の設定範囲: 0 ～65535ms、既定値: 5ms。

「文字送信間隔」設定コードを読み取ります。

文字送信時間間隔

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、継続時間が 10ms の場合は 1,0 をスキャンします。期間が 100ms の場合、1、0、0 をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

5.5 キーボード文字送信間隔のクイック設定

0ms

*5 ミリ秒

10ms

20ms

30ms

50ms

5.6 キーボード制御文字出力モード

ASCII コードでの制御文字 (0x00-0x1F) 出力モードの選択

出力ファンクションキー: 制御文字はカスタムファンクションキーとして使用されます。特定の関数については、「ASCII コード比較表」を参照してください。

CTRL キーの組み合わせを出力: CTRL キーの組み合わせモードでは、制御文字が出力されます。特定の関数については、「ASCII コード比較表」を参照してください。

出力 ALT + 数字キー: 中国語環境での完全な制御文字出力をサポートします。特定の機能については、ASCII コード比較表 を参照してください。

* 出力ファンクションキー

CTRL キーの組み合わせを出力します

ALT+ 数字キーを出力

6 データ編集

6.1 バーコード ID

AIM ID

AIM は Automatic Identification Manufacturers（自動識別製造者協会）の略称です。AIM ID は、さまざまな標準バーコードの識別コードを定義します (ユーザーは AIM ID をカスタマイズできません)。特定の定義については、付録 C: AIM ID リストを参照してください。読取モジュールは、デコード後のバーコードデータの前にこの識別コードを追加できます。形式は「]」+ 文字「C」+ 数字「0」です。たとえば、Code 128 の AIM ID は「]C0」です。ユーザーは、AIM ID を通じてさまざまなバーコードタイプを識別できます。

* 無効にする

有効にする

Code ID

ユーザーは、Code ID を通じてさまざまなバーコードタイプを識別でき、Code ID は識別に 1 文字を使用します。具体的な定義については、付録 B を参照してください: Code ID リスト

* 無効にする

有効にする

6.2 終端文字

ホストが現在の読み取り結果を素早く区別できるように、エンドキャラクタ機能を有効にすることができ、読取モジュールはデータの出力後に対応するエンドキャラクタを追加します。

無効にする

キャリッジリターンとラインフィード

* 入力

タブ

入力してください

6.3 接頭語

プレフィックスの有効/無効

プレフィックスは、ユーザーによってカスタマイズされ、出力データに追加される文字列です。「有効」設定コードをスキャンすることで追加できます。プレフィックスをキャンセルする必要がある場合は、「無効」設定コードをスキャンしてください。

* 無効にする

有効にする

プレフィックス内容の設定

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

プレフィックス設定コードの内容形式: >!010800XX. を追加します。XX は設定変数、XX は 16 進数で表し、2 文字を 1 単位として不足分は 0 で埋められます。任意に重ね合わせることができ、最大 10 桁のデータプレフィックスをサポートします。

例: プレフィックス文字 A を設定する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16 進値は 41 で、設定コードの内容は次のとおりです: >!01080041.

たとえば、プレフィックス文字 A B C を設定する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16 進値は 41 42 43 であり、設定コードの内容は次のようになります: >!010800414243.

方法 2:

「プレフィックス設定」設定コードをスキャンします

プレフィックス設定

「数字設定コード」を 2 つずつ 1 グループとして順番にスキャンします。

たとえば、プレフィックス文字 A を設定する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16 進値が 41 の場合は、それぞれ 4 と 1 をスキャンします。

たとえば、プレフィックス文字 ABC を設定する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16 進値は 414243 で、それぞれ 4、1、4、2、4、3 をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します。

もちろん

6.4 サフィックス

サフィックスの有効/無効

サフィックスは、ユーザーによってカスタマイズされ、出力データに追加される文字列です。「有効」設定コードをスキャンすることで追加できます。サフィックスを解除する必要がある場合は、「無効」設定コードをスキャンしてください。

* 無効にする

有効にする

サフィックス内容の設定

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

サフィックス設定コードの内容形式: >!010801XX. を追加します。XX は設定変数、XX は 16 進数で表し、2 文字を 1 単位とし、不足する場合は 0 を埋めます。任意に重畳可能で、サフィックスは最大 10 個まで対応します。

例: サフィックス文字 A を設定する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16 進値は 41 で、設定コードの内容は次のとおりです: >!01080141.

たとえば、サフィックス文字 ABC を設定する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16 進値は 414243 で、設定コードの内容は >!010801414243. となります。

方法 2:

「サフィックス設定」設定コードをスキャンします

サフィックス設定

「数字設定コード」を 2 つずつ 1 グループとして順番にスキャンします。

たとえば、サフィックス文字 A を設定する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16 進値が 41 の場合は、それぞれ 4 と 1 をスキャンします。

たとえば、サフィックス文字 ABC を設定する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16 進値は 414243 で、それぞれ 4、1、4、2、4、3 をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します。

もちろん

6.5 バーコードタイプに基づいてプレフィックスを追加

バーコードタイプに基づいてプレフィックススイッチを追加

プレフィックスは、ユーザーによってカスタマイズされ、出力データに追加される文字列です。「有効」設定コードをスキャンすることで追加できます。プレフィックスをキャンセルする必要がある場合は、「無効」設定コードをスキャンしてください。

* 無効にする

有効にする

バーコードタイプに基づいてプレフィックス内容設定を追加

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

バーコードタイプに応じてプレフィックスを追加します。設定コードの内容形式は >!010806XXXX. です。XXXX は設定変数です。最初の 2 つの XX はバーコードタイプを表します。関連する 16 進値は付録 F に従って確認できます。次の XX は 16 進数で表されます。2 文字を 1 単位とします。不足分は 0 で埋めます。任意に連結できます。最大 10 桁のデータプレフィックスです。

例: Code 128 バーコード接頭辞文字 A を設定する必要があります。付録 F によれば、Code 128 の 16 進値は 01 です。付録 E の文字比較表を確認してください。文字 A の 16 進値は 41 であるため、設定コードの内容は次のようになります: >!0108060141.

たとえば、Code 128 バーコードプレフィックス文字 A B C を設定する必要があります。付録 F によると、Code 128 の 16 進値は 01 です。付録 E の文字比較表を確認してください。A B C の 16 進文字は、それぞれ 41 42 43 です。設定コードの内容は >!01080601414243. となります。

方法 2:

「プレフィックス設定」設定コードをスキャンします

プレフィックス設定

バーコードタイプを設定するには、数字設定コードを 2 つ 1 組で順番に読み取ります。

たとえば、Code 128 のプレフィックスを設定する必要があります。付録 F のバーコードタイプによると、Code 128 のバーコードタイプの 16 進値は 01 で、それぞれ 0 と 1 をスキャンします。

プレフィックス内容を設定し、「数字設定コード」を 2 つずつ 1 グループとして順番に読み取ります。

たとえば、プレフィックス文字 A を設定する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。文字 A の 16 進値は 41 であるため、それぞれ 4 と 1 をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

バーコードタイプに基づいてプレフィックスをクリアする

設定済みのプレフィックスを消去します。この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

バーコードタイプに応じたクリアプレフィックス設定コードの内容形式は >!010808XX. となります。XX は設定変数、XX はバーコードタイプを 16 進数で示し、2 文字を 1 単位とし、不足分は 0 で埋められます。関連する 16 進数の値は付録 F に記載されています。

たとえば、Code 128 バーコードプレフィックスをクリアする必要があります。付録 F によると、Code 128 の 16 進値は 01 であるため、設定コードの内容は >!01080801. になります。

方法 2:

「プレフィックスクリア」設定コードをスキャンします。

プレフィックスをクリア

バーコードタイプをクリアし、「数字設定コード」を 2 つずつグループとして順番にスキャンします。

たとえば、Code 128 プレフィックスをクリアする必要があります。付録 F のバーコードタイプによると、バーコードタイプ Code 128 の 16 進値は 01 なので、それぞれ 0 と 1 をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します。

もちろん

6.6 バーコードタイプに基づいてサフィックスを追加

バーコードタイプに応じてサフィックススイッチを追加

サフィックスは、ユーザーによってカスタマイズされ、出力データに追加される文字列です。「有効」設定コードをスキャンすることで追加できます。サフィックスを解除する必要がある場合は、「無効」設定コードをスキャンしてください。

* 無効にする	有効にする

バーコードタイプに応じたサフィックス内容設定の追加

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

バーコードタイプに応じてサフィックスを追加します。設定コードの内容形式は >!010807XXXX. です。このうち、XXXX は設定変数です。最初の 2 つの XX はバーコードタイプを表します。関連する 16 進値は付録 F にあります。次の XX は 16 進数で表されます。2 文字を 1 単位とします。不足分は 0 で埋めます。任意に連結できます。最大 10 桁のデータ接尾辞です。

たとえば、Code 128 バーコードサフィックス文字 A を設定する必要があります。付録 F によれば、Code 128 の 16 進値は 01 です。付録 E の文字比較表を確認してください。文字 A の 16 進値は 41 であるため、設定コードの内容は >!0108070141. となります。

たとえば、Code 128 バーコードサフィックス文字 A B C を設定する必要があります。付録 F によると、Code 128 の 16 進値は 01 です。付録 E の文字比較表を確認してください。16 進文字 A B C は、それぞれ 41 42 43 です。設定コードの内容は >!01080701414243. となります。

方法 2:

「サフィックス設定」設定コードをスキャンします

サフィックス設定

バーコードタイプを設定するには、数字設定コードを 2 つ 1 組で順番に読み取ります。

たとえば、Code 128 のサフィックスを設定する必要があります。付録 F のバーコードタイプによると、Code 128 のバーコードタイプの 16 進値は 01 で、それぞれ 0 と 1 をスキャンします。

サフィックス内容を設定し、「数字設定コード」を 2 つずつ 1 グループとして順番に読み取ります。

たとえば、サフィックス文字 A を設定する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。文字 A の 16 進値は 41 であるため、それぞれ 4 と 1 をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

バーコードタイプに基づいたクリアサフィックス

設定済みのサフィックスを消去します。この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

バーコードタイプに応じたサフィックス設定コードのクリアの内容形式は >!010809XX. となります。XX は設定変数、XX はバーコードタイプを 16 進数で示し、2 文字を 1 単位とし、不足分は 0 で埋められます。関連する 16 進数の値は付録 F に記載されています。

たとえば、Code 128 バーコードサフィックスをクリアする必要があります。付録 F によると、Code 128 の 16 進値は 01 であるため、設定コードの内容は >!01080901. になります。

方法 2:

「Clear Suffix」設定コードをスキャンします

クリアサフィックス

バーコードタイプをクリアし、「数字設定コード」を 2 つずつグループとして順番にスキャンします。

たとえば、Code 128 サフィックスをクリアする必要があります。付録 F のバーコードタイプによると、Code 128 のバーコードタイプの 16 進値は 01 で、それぞれ 0 と 1 をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

6.7 固定文字を非表示にする

この機能は、ユーザーが必要に応じて出力する必要のない文字列を非表示にすることができます。

固定文字スイッチを非表示にする

* 無効にする

有効にする

固定文字設定を非表示にする

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

固定文字設定コードの内容を非表示にする形式：>!010802XX. XX は設定変数、XX は 16 進数で表し、2 文字を 1 単位とし不足分は 0 を補います。最大 20 桁まで任意に連結できます。

たとえば、隠し文字 A を設定する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16 進値は 41 で、設定コードの内容は >!01080241. です。

たとえば、隠し文字 ABC を設定する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16 進値は 414243 で、設定コードの内容は >!010802414243. となります。

方法 2:

「固定文字非表示」設定コードをスキャンします。

固定文字を非表示にする

「数字設定コード」を 2 つずつ 1 グループとして順番にスキャンします。

たとえば、文字 A を非表示にする必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16 進値が 41 の場合は、それぞれ 4 と 1 をスキャンします。

例: 改行を非表示にする必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16 進値が 0A の場合は、それぞれ 0 と A をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

6.8 長さに基づいてバーコードデータを保持する

ユーザーが必要とするデータを必要に応じてバーコード内に保持できる機能です。

データ維持の有効/無効

* 無効にする

前方インデックス

逆索引

注釈

前方インデックス (データの先頭から開始位置まで)。逆インデックス（データの後端から開始位置まで）

データの開始位置を保持する

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

開始位置設定コードの内容形式は >!00102AXX. です。XX は設定変数で、10 進数の範囲は 1～65535 です。

例えば、開始位置を 11 に設定する場合、設定コードの内容は`>!00102A11.` です。

方法 2:

「開始位置」設定コードをスキャンします

開始位置

「番号設定コード」を読み取り、番号から始まり、対応する番号設定コードを読み取ります。たとえば、11 桁目の場合は、1,1 をスキャンします。100 桁目については、1、0、0 をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

データの終了位置を保持する

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

終了位置設定コードの内容形式は、>!00102BXX. となります。XX は設定変数で、10 進数の範囲は 1 〜65535 です。

例えば、終了位置を 50 に設定する場合、設定コードの内容は`>!00102B50.` です。

方法 2:

「終了位置」設定コードをスキャンします

終了位置

「番号設定コード」を末尾の番号から順に読み取り、対応する番号設定コードを読み取ります。たとえば、50 番目の位置の場合は、5,0 をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

6.9 長さに基づいてバーコードデータを非表示にする

ユーザーのニーズに応じて、バーコード内の不要なデータを非表示にする機能です。

バーコードデータを非表示にするの有効/無効

* 無効にする

前方インデックス

逆索引

注釈

前方インデックス (データの先頭から開始位置まで)。逆インデックス（データの後端から開始位置まで）

バーコードデータの開始位置を隠す

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

開始位置設定コードの内容形式は >!001027XX. となります。このうち、XX は設定変数で、10 進数の範囲は 1～65535 です。

例えば、開始位置を 11 に設定する場合、設定コードの内容は>!00102711. です。

方法 2:

「開始位置」設定コードをスキャンします

開始位置

「番号設定コード」を読み取り、番号から始まり、対応する番号設定コードを読み取ります。たとえば、11 桁目の場合は、1,1 をスキャンします。100 桁目については、1、0、0 をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

バーコードデータの終了位置を非表示にする

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

終了位置設定コードの内容形式は、>!001028XX. となります。XX は設定変数で、10 進数の範囲は 1 ～65535 です。

例えば、終了位置を 50 に設定する場合、設定コードの内容は>!00102850. です。

方法 2:

「終了位置」設定コードをスキャンします

終了位置

「番号設定コード」を末尾の番号から順に読み取り、対応する番号設定コードを読み取ります。たとえば、11 番目の位置の場合は、1,1 をスキャンします。

100 番目の位置については、1,0,0 をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

6.10 バーコードタイプに基づいて任意の長さのバーコードデータを非表示にする

ニーズに応じて、バーコードタイプに応じてバーコード内の不要なデータを非表示にする機能です。

バーコードタイプに基づいてバーコードデータスイッチを非表示にする

* 無効にする

前方インデックス

逆索引

注釈

前方インデックス (データの先頭から開始位置まで)。逆インデックス（データの後端から開始位置まで）

バーコードタイプに基づいてデータの開始位置を非表示にする

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

バーコードタイプに応じた隠しデータの開始位置の内容形式は >!01080AXXXX. です。XXXX は設定変数です。最初の 2 つの XX はバーコードタイプを表します。関連する 16 進値は付録 F に従って確認できます。次の XX は 16 進数で表されます。2 文字を 1 単位とします。残りの文字は 0 で埋められ、長さの範囲は 0x0000 ～0xFFFF です。

例えば、Code 128 の非表示開始位置を 11 に設定する場合、付録 F から Code 128 の 16 進値が 01、11 の 16 進値が 0B であることを確認します。設定コードの内容は`>!01080A010B.` です。

方法 2:

「バーコードタイプと開始位置」設定コードをスキャンします

バーコードタイプと開始位置

バーコードタイプを設定し、「番号設定コード」を 2 つずつグループとして順番に読み取ります。

例: Code 128 を非表示にする必要があります。付録 F のバーコードタイプによると、Code 128 のバーコードタイプの 16 進値は 01 であるため、それぞれ 0 と 1 をスキャンします。

開始位置を設定し、「数字設定コード」を 2 つずつグループとして順番にスキャンします。

ここでの使用法は 16 進数を指します。たとえば、11 桁目は 16 進数の 0B、スキャン 0、B です。100 番目の桁、16 進数 64、スキャン 6、4。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

バーコードタイプに基づいてデータの終了位置を非表示にする

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

バーコードタイプに応じた隠しデータの終了位置の内容形式は >!01080BXXXX. となります。XXXX は設定変数です。最初の 2 つの XX はバーコードタイプを表します。関連する 16 進値は付録 F に従って確認できます。次の XX は 16 進数で表されます。2 文字を 1 単位とします。不足しているものは 0 で埋められます。長さの範囲は 0x0000 ～0xFFFF です。

例えば、Code 128 の非表示終了位置を 100 に設定する場合、付録 F から Code 128 の 16 進値が 01、100 の 16 進値が 64 であることを確認します。設定コードの内容は`>!01080B0164.`です。

方法 2:

「バーコードタイプと終了位置」設定コードをスキャンします

バーコードタイプと終了位置

バーコードタイプを設定し、「番号設定コード」を 2 つずつグループとして順番に読み取ります。

例: Code 128 を非表示にする必要があります。付録 F のバーコードタイプによると、Code 128 のバーコードタイプの 16 進値は 01 であるため、それぞれ 0 と 1 をスキャンします。

終了位置を設定し、「数字設定コード」を 2 つずつ順番に読み取ります。

ここでの使用法は 16 進数を指します。たとえば、11 桁目は 16 進数の 0B、スキャン 0、B です。100 番目の桁、16 進数 64、スキャン 6、4。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

6.11 バーコードタイプに基づいて、バーコードの先頭部にある任意の長さのデータを非表示にします

この機能は、必要に応じて、バーコードタイプに応じて、ヘッダー内の不要な長さのバーコードデータを非表示にすることができます。

バーコードタイプに応じて、バーコードの先頭部にある任意の長さのデータスイッチを非表示にします

* 無効にする	有効にする

バーコードタイプに応じて、バーコードの先頭部を任意の長さに非表示にします。

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

バーコードタイプに応じて、バーコードの先頭部に隠される任意の長さのデータの長さの形式は次のとおりです: >!01080CXXXX. このうち、XXXX は設定変数です。最初の 2 つの XX はバーコードタイプを表します。関連する 16 進値は付録 F にあります。次の XX は 16 進数で表されます。2 文字を 1 単位とします。不足分は 0 で埋めます。長さの範囲は 0x0000-0xFFFF です。

例えば、Code 128 の先頭 15 文字を非表示にする場合、付録 F から Code 128 の 16 進値が 01、15 の 16 進値が 0F であることを確認します。設定コードの内容は`>!01080C010F.` です。

方法 2:

「バーコードタイプと長さ」設定コードをスキャンします

バーコードタイプと長さ

バーコードタイプを設定し、「番号設定コード」を 2 つずつグループとして順番に読み取ります。

例: Code 128 を非表示にする必要があります。付録 F のバーコードタイプによると、Code 128 のバーコードタイプの 16 進値は 01 であるため、それぞれ 0 と 1 をスキャンします。

長さを設定し、「数字設定コード」を 2 つずつ 1 グループとして順番にスキャンします。

ここでの使用法は 16 進数を指します。たとえば、長さが 11 の場合、16 進数の 0B、スキャン 0、B。長さが 100、16 進数の 64 の場合、6,4 をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

6.12 バーコードタイプに応じて、バーコードの末尾にある任意の長さのデータを非表示にします。

必要に応じて、バーコードタイプに応じて末尾の不要な長さのバーコードデータを非表示にする機能です。

バーコードタイプに応じて、バーコードの末尾にある任意の長さのデータスイッチを非表示にします。

* 無効にする	有効にする

バーコードタイプに応じて、任意の長さのバーコード末尾を非表示にします

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

バーコードタイプに応じて、バーコードの末尾にある任意の長さのデータを非表示にする長さの形式は次のとおりです: >!01080DXXXX. XXXX は設定変数です。最初の 2 つの XX はバーコードタイプを表します。関連する 16 進値は付録 F に従って確認できます。次の XX は 16 進数で表されます。2 文字を 1 単位とします。不足しているものは 0 で埋められます。長さの範囲は 0x0000 ～0xFFFF です。

例えば、Code 128 の末尾 12 文字を非表示にする場合、付録 F から Code 128 の 16 進値が 01、12 の 16 進値が 0C であることを確認します。設定コードの内容は`>!01080D010C.` です。

方法 2:

「バーコードタイプと長さ」設定コードをスキャンします

バーコードタイプと長さ

バーコードタイプを設定し、「番号設定コード」を 2 つずつグループとして順番に読み取ります。

例: Code 128 を非表示にする必要があります。付録 F のバーコードタイプによると、Code 128 のバーコードタイプの 16 進値は 01 であるため、それぞれ 0 と 1 をスキャンします。

長さを設定し、「数字設定コード」を 2 つずつ 1 グループとして順番にスキャンします。

ここでの使用法は 16 進数を指します。たとえば、長さが 11 の場合、16 進数の 0B、スキャン 0、B。長さが 100、16 進数の 64 の場合、6,4 をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

6.13 カスタムデータを挿入する

必要に応じてバーコードデータ内の任意の位置にユーザー定義データを挿入できる機能です。

カスタムデータスイッチを挿入

* 無効にする	有効にする

カスタムデータ

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

カスタム挿入データ設定コードの内容形式: :>!010803XX. XX は設定変数、XX は 16 進数で表し、2 文字を 1 単位とし不足分は 0 を埋めます。任意に重ね合わせることができ、最大 20 桁のカスタムデータに対応しています。

例: カスタムデータ A を挿入する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16 進値は 41 で、設定コードの内容は次のとおりです: >!01080341.

たとえば、カスタムデータ ABC を挿入する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16 進値は 414243 で、設定コードの内容は >!010803414243. となります。

方法 2:

「カスタムデータ」設定コードをスキャンします

カスタムデータ

「数字設定コード」を 2 つずつ 1 グループとして順番にスキャンします。

例: カスタムデータ A を挿入する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16 進値が 41 の場合は、それぞれ 4 と 1 をスキャンします。

たとえば、カスタムデータ ABC を挿入する必要がある場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16 進値は 414243 で、それぞれ 4、1、4、2、4、3 をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

挿入位置

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

位置設定コードの内容形式: >!00102EXX. を挿入します。XX は設定変数で、10 進数の範囲は 1 ～65535 です。

例えば、挿入位置を 11 に設定する場合、設定コードの内容は`>!00102E11.` です。

方法 2:

「挿入位置」設定コードをスキャンします。

挿入位置

「数字設定コード」を読み取り、位置を挿入し、対応する数字設定コードを読み取ります。たとえば、11 番目の位置の場合は、1,1 をスキャンします。

100 番目の位置については、1,0,0 をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

6.14 データの置き換え

この関数は、要件に応じて元の文字列のデータを任意のデータに置き換えることができます。

データ置換の有効/無効

* 無効にする

有効にする

置き換えられたデータ設定

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

置換データ設定コードの内容形式は >!010804XX. となります。XX は設定変数で、XX は 16 進数で表されます。2 文字を 1 単位とし、足りない場合は 0 を補います。任意に重ね合わせることができ、最大 20 桁までサポートします。

例: 置換データ A の場合、付録 E の文字比較表を確認してください。16 進値は 41、設定コードの内容は >!01080441. です。

例: 置換データ ABC の場合、付録 E の文字比較表を確認してください。16 進値は 414243 で、設定コードの内容は >!010804414243. です。

方法 2:

「置き換えられたデータ」設定コードをスキャンします

置き換えられるデータ

「数字設定コード」を 2 つずつ 1 グループとして順番にスキャンします。

例: 置換されたデータ A については、付録 E の文字比較表を確認してください。16 進値が 41 の場合は、それぞれ 4 と 1 をスキャンします。

たとえば、置換されたデータが改行の場合は、付録 E の文字比較表を確認してください。16 進数が 0A の場合は、それぞれ 0 と A をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

データ設定を置き換える

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

置換データ設定コードの内容形式: >!010805XX. XX は設定変数、XX は 16 進数で表し、2 文字を 1 単位とし、足りない場合は 0 を埋めます。任意に重ね合わせることができ、最大 20 桁までサポートします。

例: データ A が元のデータを置き換える場合、付録 E の文字比較表を確認してください。16 進値は 41 で、設定コードの内容は >!01080541. です。

例: データ ABC が元のデータを置き換える場合、付録 E の文字比較表を確認してください。16 進値は 414243 であり、設定コードの内容は >!010805414243. です。

方法 2:

「データの置換」設定コードをスキャンします

データを置き換える

「数字設定コード」を 2 つずつ 1 グループとして順番にスキャンします。

例: データ A は元のデータを置き換えます。付録 E の文字比較表を確認してください。16 進値が 41 の場合は、それぞれ 4 と 1 をスキャンします。

例: 元のデータを改行データに置き換えるには、付録 E の文字比較表を確認します。16 進数が 0A の場合は、それぞれ 0 と A をスキャンします。

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

6.15 改行と復帰

改行 (\n) と復帰改行 (\r\n) は両方とも復帰 (\r) に変換されます。

* 無効にする

有効にする

6.16 URL の有効/無効

商品のバーコード読み取り時や特殊なアプリケーションにおいて、URL 情報付きバーコードの誤読を防止するため、必要に応じて URL 情報付きバーコードの認識を無効にすることができます。

* URL コードを有効にする

URL コードを無効にする

6.17 請求書発行機能

このモジュールを請求書発行システムで正常に使用するために、ユーザーは以下の設定コードをスキャンすることで請求書コード形式を変換して出力することができます。

注釈

この機能は Alipay QR コード請求をサポートしていますが、WeChat QR コード請求はサポートしていません。

請求機能の有効/無効

* 無効にする

有効にする

請求書の種類

* 特別チケット

人気投票

6.18 GS1 ルールが有効になりました

GS1 ルールを有効にし、AI セグメントをかっこで囲みます。

* 無効にする

有効にする

7 キャラクター設定

7.1 文字セット

入力文字セット

読取モジュールがバーコードデータの文字セットを正しく知るために、「入力文字セット」を読み取ることで設定することができます。

* 自動

GBK

UTF8

ASCII

Shift-JIS 日本語

出力文字セット

ホストの文字セットのニーズに合わせて、「出力文字セット」を読み込んで設定することができます。

* 元の形式

GBK

UTF8

8 バーコード設定

8.1 バーコードのグローバル操作

グローバルの有効/無効

無効にする

有効にする

* 既定

1D バーコードグローバルの有効/無効

無効にする

有効にする

* 既定

QR コードグローバルの有効/無効

無効にする

有効にする

* 既定

バーコードのセキュリティレベル

極端な状況下でのバーコード読み取りで起こり得るコードエラーの問題を解決するために、ここでは 5 つのセキュリティレベルが提供されています。レベルが高くなるほど、読書体験は悪化します。

レベル 0

* レベル 1

レベル 2

レベル 3

レベル 4

マルチコード識別

特殊なアプリケーションシナリオでは、複数のバーコードを同時に読み取る必要があります。以下の設定コードを読み取ることで、マルチコード読み取りの有効/無効を切り替えます。

複数のコードを読み取る必要がある

* 無効にする

有効にする

複数のコードを読み取る

*1	2
3	4
5	6

グローバル反転カラーの有効/無効

以下の設定コードを読み取ることで、バーコード反転読み取りの有効/無効を切り替えます。

注釈

グローバル反転カラースイッチは、読み取り機器のパフォーマンスに大きな影響を与えます。一般的に使用されるバーコードには、個別の反転カラースイッチがあります。個別にオンにすることをお勧めします。

* 無効にする	有効にする

部分的なカラー反転の有効/無効

Code 128 逆色の有効/無効

Code 128 バーコードの反転読取を有効または無効にするには、次の設定コードを読み取ります。この設定は GS1-128 にも有効です

* 無効にする

有効にする

EAN/UPC 色反転の有効/無効

以下の設定コードを読み取ることで、EAN/UPC バーコードの反転読取を有効 / 無効にできます。

* 無効にする

有効にする

ITF25 反転カラーの有効/無効

以下の設定コードを読み取ると、ITF25 バーコードの反転読取を有効/無効にできます。

* 無効にする

有効にする

Code 39 逆色の有効/無効

Code 39 バーコードの反転読取を有効または無効にするには、次の設定コードを読み取ります。

* 無効にする

有効にする

Codabar 反転カラーの有効/無効

Codabar バーコードの反転読取を有効または無効にするには、次の設定コードを読み取ります。

* 無効にする

有効にする

Code 93 逆色の有効/無効

以下の設定コードを読み取って、Code 93 バーコードの反転読取を有効または無効にします。

* 無効にする

有効にする

8.2 Code 128

Code 128 の有効/無効

以下の設定コードを読み取って、Code 128 バーコードの読み取りを有効/無効にします。

無効にする

* 有効にする

Code 128 最小長

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

Code 128 設定コードの内容の最小長の形式: >!000012XX. XX は 0 ～255 の 10 進数の設定変数です。

例: Code 128、最小長が 2 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!0000122.

例: Code 128、最小長が 12 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!00001212.

方法 2:

「Code 128 最小長」設定コードをスキャンします。

Code 128 最小長

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、最小長が 2 桁の場合は 2 をスキャンします。最小長が 12 桁の場合は、1、2 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

Code 128 最大長

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

Code 128 設定コードの内容の最大長の形式: >!000013XX. XX は設定変数で、10 進数の範囲は 0 〜255 です。

例: Code 128 最大長が 9 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!0000139.

例: Code 128 最大長が 20 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!00001320.

方法 2:

「Code 128 最大長」設定コードをスキャンします。

Code 128 最大長

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、最大長が 9 桁の場合は 9 をスキャンします。最大長が 20 桁の場合、2,0 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

Code 128 セキュリティレベル

バーコードのセキュリティレベルが高いほどエラー率は低くなり、コード読み取り効果にもある程度の影響が出ます。

* 低い

真ん中

高い

8.3 UCC/EAN-128/GS1-128

GS1 128 の有効/無効

以下の設定コードを読み取って、GS1 128 バーコードの読み取りを有効/無効にします。

無効にする

* 有効にする

GS1 最小長 128

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

GS1 128 最小長設定コードの内容形式: >!000022XX. XX は設定変数で、10 進数の範囲は 0 ～ 255 です。

例: GS1 128 の最小長が 2 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!0000222.

例: GS1 128 の最小長が 12 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!00002212.

方法 2:

「GS1 128 最小長」設定コードをスキャンします。

GS1 最小長 128

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、最小長が 2 桁の場合は 2 をスキャンします。最小長が 12 桁の場合は、1、2 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

GS1 最大長 128

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

GS1 128 設定コードの内容の最大長の形式: >!000023XX. XX は設定変数で、10 進数の範囲は 0 ～255 です。

例: GS1 128 の最大長が 9 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!0000239.

例: GS1 128 の最大長が 20 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!00002320.

方法 2:

「GS1 128 最大長」設定コードをスキャンします

GS1 最大長 128

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、最大長が 9 桁の場合は 9 をスキャンします。最大長が 20 桁の場合、2,0 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

8.4 EAN-8

EAN-8 の有効/無効

以下の設定コードを読み取って、EAN-8 バーコードの読み取りを有効/無効にします。

無効にする

* 有効にする

EAN-8 チェックデジットの送信

以下の設定コードを読み取って、EAN-8 がチェックデジットを送信するかどうかを設定します。

無効にする

* 有効にする

EAN-8 2 桁の追加コードを読み取ります

以下の設定コードを読み取って、EAN-8 が 2 桁の追加コードを読み取れるかどうかを設定します。

* 無効にする

有効にする

EAN-8 5 桁の追加コードを読み取ります

以下の設定コードを読み取って、EAN-8 が 5 桁の追加コードを読み取れるかどうかを設定します。

* 無効にする

有効にする

追加コード EAN-8 による読み取り専用

追加コードで EAN-8 のみを読み取るかどうかを設定するには、次の設定コードを読み取ります

* 無効にする

有効にする

8.5 EAN-13

EAN-13 の有効/無効

以下の設定コードを読み取って、EAN-13 バーコードの読み取りを有効/無効にします。

無効にする

* 有効にする

EAN-13 チェックデジットの送信

以下の設定コードを読み取って、EAN-13 がチェックデジットを送信するかどうかを設定します。

無効にする

* 有効にする

EAN-13 2 桁の追加コードを読み取ります

以下の設定コードを読み取って、EAN-13 が 2 桁の追加コードを読み取れるかどうかを設定します。

* 無効にする

有効にする

EAN-13 5 桁の追加コードを読み取ります

以下の設定コードを読み取って、EAN-13 が 5 桁の追加コードを読み取れるかどうかを設定します。

* 無効にする

有効にする

追加コード EAN-13 による読み取り専用

以下の設定コードを読み込み、追加コードで EAN-13 のみを読み込むかどうかを設定します。

* 無効にする

有効にする

8.6 ISSN

以下の設定コードを読み取って、ISSN バーコードの読み取りを有効または無効にします。

注釈

ISSN を無効にすると、ISSN は EAN-13 として扱われます

* 無効にする

有効にする

8.7 ISBN

以下の設定コードを読み取って、ISBN バーコードの読み取りを有効または無効にします。

注釈

ISBN を無効にすると、ISBN は EAN-13 として扱われます。

* 無効にする

有効にする

8.8 UPC-E

UPC-E の有効/無効

以下の設定コードを読み取って、UPC-E バーコードの読み取りを有効/無効にします。

無効にする

* 有効にする

UPC-E チェックデジットの送信

以下の設定コードを読み取って、UPC-E がチェックデジットを送信するかどうかを設定します。

無効にする

* 有効にする

UPC-E 2 桁の追加コードを読み取ります

以下の設定コードを読み取って、UPC-E が 2 桁の追加コードを読み取れるかどうかを設定します。

* 無効にする

有効にする

UPC-E 5 桁の追加コードを読み取ります

以下の設定コードを読み取って、UPC-E が 5 桁の追加コードを読み取れるかどうかを設定します。

* 無効にする

有効にする

追加コード UPC-E による読み取り専用

以下の設定コードを読み取って、追加コード UPC-E のみを読み込むかどうかを設定します。

* 無効にする	有効にする

伝送方式キャラクタ「0」

以下の設定コードを読み取って、UPC-E がシステムキャラクタ「0」を送信するかどうかを設定します。

無効にする	* 有効にする

UPC-E から UPC-A

以下の設定コードを読み取って、UPC-E を UPC-A に変換するかどうかを設定します。

* 無効にする	有効にする

UPC-E1 の有効/無効

以下の設定コードを読み取って、UPC-E1 を読み込むかどうかを設定します。

* 無効にする

有効にする

国文字「0」を送信

UPC-E が各国文字「0」を送信するかどうかを設定するには、以下の設定コードを読み取ります。

* 無効にする

有効にする

8.9 UPC-A

UPC-A の有効/無効

以下の設定コードを読み取って、UPC-A バーコードの読み取りを有効/無効にします。

無効にする

* 有効にする

UPC-A チェックデジットの送信

以下の設定コードを読み取って、UPC-A がチェックデジットを送信するかどうかを設定します。

無効にする

* 有効にする

UPC-A 2 桁の追加コードを読み取ります

以下の設定コードを読み取って、UPC-A が 2 桁の追加コードを読み取れるかどうかを設定します。

* 無効にする

有効にする

UPC-A 5 桁の追加コードを読み取ります

以下の設定コードを読み取って、UPC-A が 5 桁の追加コードを読み取れるかどうかを設定します。

* 無効にする

有効にする

追加コード UPC-A による読み取り専用

以下の設定コードを読み取って、追加コード UPC-A のみを読み込むかどうかを設定します。

* 無効にする

有効にする

伝送方式キャラクタ「0」

UPC-A がシステムキャラクタを送信するかどうかを設定するには、次の設定コードを読み取ります。

無効にする

* 有効にする

国文字「0」を送信

UPC-E が各国文字「0」を送信するかどうかを設定するには、以下の設定コードを読み取ります。(UPC-A を EAN-13 に変換するかどうかを設定します)

* 無効にする

有効にする

8.10 ITF25

ITF25 の有効/無効

以下の設定コードを読み取って、ITF25 バーコードの読み取りを有効/無効にします。

無効にする

* 有効にする

ITF25 チェックデジット検証

以下の設定コードを読み取って、ITF25 チェックデジットの検証を行うかどうかを設定します。

* 無効にする

有効にする

ITF25 チェックデジット送信

以下の設定コードを読み取って、ITF25 チェックデジットを送信するかどうかを設定します。

注釈

チェックデジットの送信を有効にするには、まずチェックデジット検証機能を有効にしてください。

* 無効にする

有効にする

ITF25 の最小長さ

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

ITF25 最小長設定コード内容形式：>!0000B3XX. XX は 0 〜255 の 10 進数の設定変数です。

たとえば、ITF25 の最小長が 2 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0000B32. になります。

たとえば、ITF25 の最小長が 12 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0000B312. になります。

方法 2:

「ITF25 最小長」設定コードをスキャンします。

ITF25 の最小長さ

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、最小長が 2 桁の場合は 2 をスキャンします。最小長が 12 桁の場合は、1、2 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

ITF25 最大長

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

ITF25 最大長設定コード内容形式：>!0000B4XX. XX は設定変数で、10 進数の範囲は 0 〜255 です。

たとえば、ITF25 の最大長が 9 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0000B49. になります。

たとえば、ITF25 の最大長が 20 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0000B420. となります。

方法 2:

「ITF25 最大長」設定コードをスキャンします。

ITF25 最大長

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、最大長が 9 桁の場合は 9 をスキャンします。最大長が 20 桁の場合、2,0 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

ブラジル政府/銀行コード

* 無効にする

有効にする

8.11 NEC25/COOP25

NEC25 の有効/無効

以下の設定コードを読み取って、NEC25 のバーコード読み取りを有効/無効にします。

* 無効にする

有効にする

NEC25 チェックデジット検証

以下の設定コードを読み取って、NEC25 チェックデジットの検証を行うかどうかを設定します。

* 無効にする

有効にする

NEC25 チェックデジット送信

以下の設定コードを読み取って、NEC25 チェックデジットを送信するかどうかを設定します。

注釈

チェックデジットの送信を有効にするには、まずチェックデジット検証機能を有効にしてください。

* 無効にする

有効にする

NEC25 最小長

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

NEC25 最小長設定コードの内容形式: >!000103XX. XX は 0 〜255 の 10 進数の設定変数です。

たとえば、NEC25 の最小長が 2 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0001032. になります。

たとえば、NEC25 の最小長が 12 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00010312. になります。

方法 2:

「NEC25 最小長」設定コードをスキャンします。

NEC25 最小長

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、最小長が 2 桁の場合は 2 をスキャンします。最小長が 12 桁の場合は、1、2 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

NEC25 最大長

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

NEC25 の最大長設定コードの内容形式: >!000104XX. XX は 0 〜255 の 10 進数の設定変数です。

例: NEC25 の最大長が 9 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0001049. となります。

例: NEC25 の最大長が 20 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00010420. となります。

方法 2:

「NEC25 最大長」設定コードをスキャンします。

NEC25 最大長

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、最大長が 9 桁の場合は 9 をスキャンします。最大長が 20 桁の場合、2,0 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

8.12 MATRIX25

Matrix 2 of 5 の有効/無効

MATRIX25 のバーコード読み取りを有効/無効にするには、以下の設定コードを読み取ります。

* 無効にする	有効にする

MATRIX25 チェックデジットの検証

以下の設定コードを読み取って、MATRIX25 のチェックデジットを検証するかどうかを設定します。

* 無効にする

有効にする

MATRIX25 チェックデジット送信

以下の設定コードを読み取って、MATRIX25 チェックデジットを送信するかどうかを設定します。

注釈

チェックデジットの送信を有効にするには、まずチェックデジット検証機能を有効にしてください。

* 無効にする

有効にする

MATRIX25 の最小長

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

MATRIX25 最小長設定コードの内容形式: >!000113XX. XX は設定変数で、10 進数の範囲は 0 ～255 です。

たとえば、MATRIX25 の最小長が 2 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0001132. になります。

たとえば、MATRIX25 の最小長が 12 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00011312. となります。

方法 2:

「MATRIX25 最小長」設定コードをスキャンします。

MATRIX25 の最小長

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、最小長が 2 桁の場合は 2 をスキャンします。最小長が 12 桁の場合は、1、2 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

MATRIX25 の最大長

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

MATRIX25 の最大長設定コードの内容形式: >!000114XX. XX は設定変数で、10 進数の範囲は 0 ～255 です。

たとえば、MATRIX25 の最大長が 9 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0001149. となります。

たとえば、MATRIX25 の最大長が 20 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00011420. となります。

方法 2:

「MATRIX25 最大長」設定コードをスキャンします。

MATRIX25 の最大長

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、最大長が 9 桁の場合は 9 をスキャンします。最大長が 20 桁の場合、2,0 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

8.13 IND25

IND25 の有効/無効

以下の設定コードを読み取ることで、IND25 バーコードの読み取りを有効/無効にできます。

* 無効にする

有効にする

IND25 の最小長さ

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

IND25 最小長設定コードの内容形式: >!000123XX. XX は 0 ～255 の 10 進数の設定変数です。

たとえば、IND25 の最小長が 2 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0001232. になります。

たとえば、IND25 の最小長が 12 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00012312. になります。

方法 2:

「IND25 最小長」設定コードをスキャンします。

IND25 の最小長さ

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、最小長が 2 桁の場合は 2 をスキャンします。最小長が 12 桁の場合は、1、2 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

IND25 の最大長

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

IND25 最大長設定コード内容形式: >!000124XX. XX は設定変数で、10 進数の範囲は 0 ～ 255 です。

たとえば、IND25 の最大長が 9 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0001249. となります。

たとえば、IND25 の最大長が 20 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00012420. となります。

方法 2:

「IND25 最大長」設定コードをスキャンします。

IND25 の最大長

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、最大長が 9 桁の場合は 9 をスキャンします。最大長が 20 桁の場合、2,0 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

8.14 STD25

STD25 の有効/無効

STD25 バーコード読み取りを有効/無効にするには、以下の設定コードを読み取ります。

* 無効にする	有効にする

STD25 最小長さ

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

STD25 最小長設定コード内容形式: >!000133XX. XX は 0 ～255 の 10 進数の設定変数です。

例: STD25 の最小長が 2 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0001332. となります。

例: STD25 の最小長が 12 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00013312. となります。

方法 2:

「STD25 最小長」設定コードをスキャンします。

STD25 最小長さ

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、最小長が 2 桁の場合は 2 をスキャンします。最小長が 12 桁の場合は、1、2 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

STD25 最大長

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

STD25 最大長設定コード内容形式：>!000134XX. XX は 0 ～255 の 10 進数の設定変数です。

例：STD25 の最大長が 9 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0001349. となります。

例：STD25 の最大長が 20 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00013420. となります。

方法 2:

「STD25 最大長」設定コードをスキャンします。

STD25 最大長

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、最大長が 9 桁の場合は 9 をスキャンします。最大長が 20 桁の場合、2,0 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

8.15 Code 39

Code 39 の有効/無効

以下の設定コードを読み取って、Code 39 バーコードの読み取りを有効/無効にします。

無効にする

* 有効にする

Code 39 チェックデジットの検証

以下の設定コードを読み取って、Code 39 チェックデジットを検証するかどうかを設定します。

* 無効にする

有効にする

Code 39 チェックデジットの送信

以下の設定コードを読み取って、Code 39 チェックデジットを送信するかどうかを設定します。

注釈

チェックデジットの送信を有効にするには、まずチェックデジット検証機能を有効にしてください。

* 無効にする

有効にする

Code 39 スタートキャラクタ/エンドキャラクタの送信

以下の設定コードを読み取って、Code 39 開始キャラクタ/終了キャラクタを送信するかどうかを設定します。

* 無効にする

有効にする

Code 39 フル ASCII の有効/無効

以下の設定コードを読み取って、Code 39 FULL ASCII バーコードの読み取りを有効または無効にします。

* 無効にする

有効にする

Code 39 最小長

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

Code 39 設定コード内容の最小長の形式: >!000145XX. XX は 0 ～255 の 10 進数の設定変数です。

例: Code 39、最小長が 2 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!0001452.

例: Code 39、最小長が 12 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!00014512.

方法 2:

「Code 39 最小長」設定コードをスキャンします。

Code 39 最小長

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、最小長が 2 桁の場合は 2 をスキャンします。最小長が 12 桁の場合は、1、2 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

Code 39 最大長

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

Code 39 設定コードの内容の最大長の形式: >!000146XX. XX は 0 〜255 の 10 進数の設定変数です。

例: Code 39 最大長が 9 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!0001469.

例: Code 39 最大長が 20 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!00014620.

方法 2:

「Code 39 最大長」設定コードをスキャンします。

Code 39 最大長

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、最大長が 9 桁の場合は 9 をスキャンします。最大長が 20 桁の場合、2,0 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

Code 32 の有効/無効

次の設定コードを読み取って、Code 39 の有効/無効を Code 32 設定に変換します。

* 無効にする

有効にする

Code 32 プレフィックス

以下の設定コードを読み取って、Code 32 プレフィックスを送信するかどうかを設定します。

* 無効にする

有効にする

Code 32 チェックデジットの検証

以下の設定コードを読み取って、Code 32 チェックデジットを検証するかどうかを設定します。

* 無効にする

有効にする

Code 32 チェックデジットの送信

以下の設定コードを読み取って、Code 32 チェックデジットを送信するかどうかを設定します。

> **注釈**
>
> チェックデジットの送信を有効にするには、まずチェックデジット検証機能を有効にしてください。

* 無効にする

有効にする

8.16 Codabar

Codabar の有効/無効

以下の設定コードを読み取って、Codabar バーコードの読み取りを有効または無効にします。

* 無効にする

有効にする

Codabar チェックデジットの検証

以下の設定コードを読み取って、Codabar チェックデジットの検証を行うかどうかを設定します。

* 無効にする

有効にする

Codabar チェックデジットの送信

以下の設定コードを読み取って、Codabar チェックデジットを送信するかどうかを設定します。

注釈

チェックデジットの送信を有効にするには、まずチェックデジット検証機能を有効にしてください。

* 無効にする

有効にする

Codabar スタートキャラクタ/エンドキャラクタ送信

以下の設定コードを読み取って、Codabar のスタートキャラクタ/エンドキャラクタを送信するかどうかを設定します。

無効にする

* 有効にする

Codabar の開始文字/終了文字の形式

以下の設定コードを読み取って、Codabar の開始文字/終了文字の形式を設定します。

* 通常の ABCD 形式

ABCD/TN*E 形式

Codabar の開始文字/終了文字の大文字と小文字の区別

以下の設定コードを読み取って、Codabar の開始文字/終了文字を大文字にするか小文字にするかを設定します。

* 大文字

小文字

Codabar の最小長

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

Codabar の最小長設定コードの内容形式: >!000156XX. XX は設定変数で、10 進数の範囲は 0 ～255 です。

たとえば、Codabar の最小長が 2 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0001562. になります。

たとえば、Codabar の最小長が 12 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00015612. になります。

方法 2:

「Codabar Minimum Length」設定コードをスキャンします。

Codabar の最小長

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、最小長が 2 桁の場合は 2 をスキャンします。最小長が 12 桁の場合は、1、2 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

Codabar の最大長

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

Codabar 最大長設定コードの内容形式: >!000157XX. XX は設定変数で、10 進数の範囲は 0 ～255 です。

たとえば、Codabar の最大長が 9 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0001579. になります。

たとえば、Codabar の最大長が 20 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00015720. となります。

方法 2:

「Codabar 最大長」設定コードをスキャンします。

Codabar の最大長

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、最大長が 9 桁の場合は 9 をスキャンします。最大長が 20 桁の場合、2,0 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

8.17 Code 93

Code 93 の有効/無効

以下の設定コードを読み取って、Code 93 バーコードの読み取りを有効または無効にします。

無効にする

* 有効にする

Code 93 の最小長

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

Code 93 設定コードの内容の最小長の形式: >!000163XX. XX は設定変数で、10 進数の範囲は 0 ～255 です。

例: Code 93 の最小長が 2 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!0001632.

例: Code 93 の最小長が 12 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!00016312.

方法 2:

「Code 93 Minimum Length」設定コードをスキャンします。

Code 93 の最小長

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、最小長が 2 桁の場合は 2 をスキャンします。最小長が 12 桁の場合は、1、2 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

Code 93 の最大長

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

Code 93 の最大長設定コードの内容形式: >!000164XX. XX は設定変数で、10 進数の範囲は 0 ～255 です。

例: Code 93 の最大長が 9 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!0001649.

たとえば、Code 93 の最大長が 20 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00016420. となります。

方法 2:

「Code 93 最大長」設定コードをスキャンします。

Code 93 の最大長

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、最大長が 9 桁の場合は 9 をスキャンします。最大長が 20 桁の場合、2,0 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

8.18 Code 11

Code 11 の有効/無効

以下の設定コードを読み取って、Code 11 バーコードの読み取りを有効または無効にします。

* 無効にする

有効にする

Code 11 チェックデジットの検証

以下の設定コードを読み取って、Code 11 のチェックデジットを検証するかどうかを設定します。

* 検証なし

1 ビットチェックサム

2 桁のチェックサム

Code 11 チェックデジットの送信

以下の設定コードを読み取って、Code 11 チェックデジットを送信するかどうかを設定します。

注釈

チェックデジットの送信を有効にするには、まずチェックデジット検証機能を有効にしてください。

* 無効にする

有効にする

Code 11 の最小長

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

Code 11 設定コードの内容の最小長の形式: >!000173XX. XX は 0 ～255 の 10 進数の設定変数です。

たとえば、Code 11 の最小長が 2 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0001732. になります。

たとえば、Code 11 の最小長が 12 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00017312. になります。

方法 2:

「Code 11 最小長」設定コードをスキャンします。

Code 11 の最小長

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、最小長が 2 桁の場合は 2 をスキャンします。最小長が 12 桁の場合は、1、2 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

Code 11 の最大長

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

Code 11 最大長設定コードの内容形式: >!000174XX. XX は 0 ～255 の 10 進数の設定変数です。

たとえば、Code 11 の最大長が 9 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0001749. となります。

たとえば、Code 11 の最大長が 20 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00017420. となります。

方法 2:

「Code 11 最大長」設定コードをスキャンします。

Code 11 の最大長

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、最大長が 9 桁の場合は 9 をスキャンします。最大長が 20 桁の場合、2,0 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

8.19 MSI Plessey

MSI Plessey の有効/無効

MSI Plessey バーコード読み取りを有効または無効にするには、次の設定コードを読み取ります。

* 無効にする

有効にする

MSI Plessey チェックデジット検証

以下の設定コードを読み取って、MSI Plessey チェックデジットを検証するかどうかを設定します。

* MOD10 単一文字チェック

MOD10/MOD10 二重文字チェック

MOD10/MOD11 二重文字チェック

MSI Plessey チェックデジット送信

MSI Plessey チェックデジットを送信するかどうかを設定するには、以下の設定コードを読み取ります。

注釈

チェックデジットの送信を有効にするには、まずチェックデジット検証機能を有効にしてください。

* 無効にする

有効にする

MSI Plessey の最小長

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

MSI Plessey の最小長設定コードの内容形式: >!000193XX. XX は設定変数で、10 進数の範囲は 0 ～255 です。

例: MSI Plessey の最小長が 2 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!0001932.

例: MSI Plessey の最小長が 12 に設定されている場合、設定コードの内容は次のようになります: >!00019312.

方法 2:

「MSI Plessey Minimum Length」設定コードをスキャンします。

MSI Plessey の最小長

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、最小長が 2 桁の場合は 2 をスキャンします。最小長が 12 桁の場合は、1、2 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

MSI Plessey の最大長

この設定には 2 つの方法があります。方法 1 では、ユーザーが QR コードを生成します。多数の項目を設定する場合に適し、柔軟に設定できます。方法 2 では、本書の手順に従って設定コードを読み取ります。

方法 1:

MSI Plessey の最大長設定コードの内容形式: >!000194XX. XX は設定変数で、10 進数の範囲は 0 〜255 です。

たとえば、MSI Plessey の最大長が 9 に設定されている場合、設定コードの内容は >!0001949. になります。

たとえば、MSI Plessey の最大長が 20 に設定されている場合、設定コードの内容は >!00019420. となります。

方法 2:

「MSI Plessey 最大長」設定コードをスキャンします。

MSI Plessey の最大長

「デジタル設定コード」をスキャンします。たとえば、最大長が 9 桁の場合は 9 をスキャンします。最大長が 20 桁の場合、2,0 をスキャンします

「OK」設定コードを読み取って設定を終了します

もちろん

8.20 GS1 DataBar/RSS

以下の設定コードを読み取って、GS1 DataBar バーコードの読み取りを有効または無効にします。

* 無効にする

有効にする

8.21 Composite Code

以下の設定コードを読み取って、複合コードバーコードの読み取りを有効/無効にします。

> **注釈**
>
> 複合コードを有効にするには、まず別の対応するコードを有効にしてください。

* 無効にする

有効にする

8.22 TELEPEN

TELEPEN バーコード読み取りの有効 / 無効を設定するには、以下の設定コードを読み取ります。

* 無効にする

有効にする

8.23 TRIOPTIC

以下の設定コードを読み取って、TRIOPTIC バーコード読み取りを有効 / 無効にします。

* 無効にする

有効にする

8.24 HONG KONG 2 OF 5/CHINA POST

以下の設定コードを読み取って、HONG KONG 2 of 5 バーコードの読み取りを有効または無効にします。

* 無効にする

有効にする

8.25 韓国郵便/韓国郵便

以下の設定コードを読み取って、KOREA POST/Korea Post バーコードの読み取りを有効/無効にします。バーコードの長さは 6 バイトである必要があります。

* 無効にする

有効にする

韓国郵便チェックデジット送信

以下の設定コードを読み取って、KOREA POST チェックデジットを送信するかどうかを設定します。

* 無効にする

有効にする

韓国郵便のデータが逆転

* 無効にする

有効にする

8.26 PDF417

PDF417 の有効/無効

以下の設定コードを読み取って、PDF417 バーコードの読み取りを有効/無効にします。

無効にする

* 有効にする

PDF417 の通常/反転読取

以下の設定コードを読み取って、正逆 PDF417 コードを読み込めるかどうかを設定します。

* ポジティブカラーのみを読み取ります

読み取り専用反転カラー

ポジカラーでもネガカラーでも読み取り可能

8.27 QR Code

QR の有効/無効

以下の設定コードを読み取って、QR バーコードの読み取りを有効/無効にします。

無効にする

* 有効にする

QR Code ポジティブおよび反転読取

以下の設定コードを読み取って、正色/逆色 QR Code を読み込めるかどうかを設定します。

* ポジティブカラーのみを読み取ります

読み取り専用反転カラー

ポジカラーでもネガカラーでも読み取り可能

QR Code ミラー読み取り

次の設定コードを読んで、イメージ QR Code を読み取れるかどうかを設定します。

無効にする

* 有効にする

8.28 Data Matrix (DM)

Data Matrix の有効/無効

以下の設定コードを読み取って、Data Matrix バーコードの読み取りを有効/無効にします。

無効にする

* 有効にする

Data Matrix ポジティブおよび反転読取

以下の設定コードを読み取って、プラス/リバースカラーの Data Matrix コードを読み取れるかどうかを設定します。

* ポジティブカラーのみを読み取ります

読み取り専用反転カラー

ポジカラーでもネガカラーでも読み取り可能

Data Matrix ミラー読み取り

以下の設定コードを読み取って画像の Data Matrix コードを読み込めるかどうかを設定します

* 無効にする

有効にする

* 無効にする

有効にする

8.29 Aztec Code

AZTEC CODE バーコードの読み取りを有効/無効にするには、以下の設定コードを読み取ります。

* 無効にする

有効にする

9 付録

9.1 数字設定コード

付録には 0 ～9 の数字が含まれています。文字 A～F。キャンセル; 設定コードを確認します。

0	1
2	3
4	5
6	7
8	9

A

B

C

D

E

F

もちろん

キャンセル

9.2 Code ID

コード文字	バーコードタイプ
C	Code 128/UCC/EAN-128/GS1-128
F	Code 39/Code 32
J	Code 11
B	Codabar
K	Code 93
E	EAN-13/EAN-8/ISBN/ISSN
U	UPC-A/UPC-E
I	ITF25

次のページに続く

表 1 – 前のページからの続き

コード文字	バーコードタイプ
D	IND25
S	STD25
M	MATRIX25
N	NEC25/COOP25
P	MSI Plessey
T	TELEPEN
A	Pharmacode One-Track
W	TRIOPTIC
H	HONG KONG 2 of 5/CHINA POST
R	GS1 DataBar/RSS
q	QR Code/Micro QR
p	PDF417/MicroPDF417
d	Data Matrix (DM)
a	Aztec Code
h	Han Xin
m	MaxiCode
t	DotCode
g	GM
o	OCR
k	Codablock A
f	Codablock F
n	郵便番号
V	Korea Post

9.3 AIM ID

バーコードタイプ	AIM ID	説明する
Code 128/UCC/EAN-128/ GS1-128	]Cm	0,1,2,4
Code 39	] 午前	0,1,3,4,5,7
Code 32	]X0	
Code 11	] うーん	0,1,3
Codabar	]FM	0-1
Code 93	] ぐむ	0-9,A-Z,a-m
EAN-13	]E0	
EAN-8	]E4	
ISSN		
ISBN	]E0	
UPC-A	]E0	
UPC-E	]E0	
UPC-E1	]E1	
ITF25	] 私は	0,1,3
IND25	]S0	
STD25	］うーん	0,1,3
MATRIX25	]X0	
NEC25/COOP25	]X0	

次のページに続く

表 2 – 前のページからの続き

バーコードタイプ	AIM ID	説明する
MSI Plessey	] うーん	0,1
TELEPEN	]Bm	
Pharmacode One-Track		
TRIOPTIC		
QR Code	]Qm	0-6
Micro QR	]Qm	
PDF417	］うーん	0-2
MicroPDF417	］うーん	3,4,5
Data Matrix (DM)	]dm	0-6
Aztec Code	］zm	0-9,A-C
Han Xin	]X0	
MaxiCode	] えーっと	0-3
DotCode	]X0	
GM	]X0	
Codablock A	]O6	0,1,4,5,6
Codablock F	] ああ	0,1,4,5,6
GS1 DataBar/RSS	]e0	
Korea Post	]X0	

9.4 ASCII コード比較表

16 進数	キーボードのファンクションキー操作	キーボードの CTRL キーの組み合わせ操作
00h	Null	CTRL 2
01h	Keypad Enter	CTRL A
02h	Caps lock	CTRL B
03h	Right Arrow	CTRL C
04h	Up Arrow	CTRL D
05h	Null	CTRL E
06h	Null	CTRL F
07h	Enter	CTRL G
08h	Left Arrow	CTRL H
09h	Horizontal Tab	CTRL I
0Ah	Down Arrow	CTRL J
0Bh	Vertical Tab	CTRL K
0Ch	Backspace	CTRL L
0Dh	Enter	CTRL M
0Eh	Insert	CTRL N
0Fh	Esc	CTRL O
10h	F11	CTRL P
11h	Home	CTRL Q
12h	Print Screen	CTRL R
13h	Delete	CTRL S
14h	tab+shift	CTRL T
15h	F12	CTRL U
16h	F1	CTRL V

次のページに続く

表 3 – 前のページからの続き

16 進数	キーボードのファンクションキー操作	キーボードの CTRL キーの組み合わせ操作
17h	F2	CTRL W
18h	F3	CTRL X
19h	F4	CTRL Y
1Ah	F5	CTRL Z
1Bh	F6	CTRL [
1Ch	F7	CTRL \
1Dh	F8	CTRL]
1Eh	F9	CTRL 6
1Fh	F10	CTRL -
20h	Space	
21h	!	
22h	"	
23h	#	
24h	$	
25h	%	
26h	&	
27h	'	
28h	(	
29h	)	
2Ah	*	
2Bh	+	
2Ch	,	
2Dh	-	
2Eh	.	
2Fh	/	
30h	0	
31h	1	
32h	2	
33h	3	
34h	4	
35h	5	
36h	6	
37h	7	
38h	8	
39h	9	
3Ah	:	
3Bh	;	
3Ch	<	
3Dh	=	
3Eh	>	
3Fh	?	
40h	@	
41h	A	
42h	B	
43h	C	
44h	D	
45h	E	

次のページに続く

表 3 – 前のページからの続き

16 進数	キーボードのファンクションキー操作	キーボードの CTRL キーの組み合わせ操作
46h	F	
47h	G	
48h	H	
49h	I	
4Ah	J	
4Bh	K	
4Ch	L	
4Dh	M	
4Eh	N	
4Fh	O	
50h	P	
51h	Q	
52h	R	
53h	S	
54h	T	
55h	U	
56h	V	
57h	W	
58h	X	
59h	Y	
5Ah	Z	
5Bh	[	
5Ch	\	
5Dh	]	
5Eh	^	
5Fh	_	
60h	`	
61h	a	
62h	b	
63h	c	
64h	d	
65h	e	
66h	f	
67h	g	
68h	h	
69h	i	
6Ah	j	
6Bh	k	
6Ch	l	
6Dh	m	
6Eh	n	
6Fh	o	
70h	p	
71h	q	
72h	r	
73h	s	
74h	t	

次のページに続く

表 3 – 前のページからの続き

16 進数	キーボードのファンクションキー操作	キーボードの CTRL キーの組み合わせ操作
75h	u	
76h	v	
77h	w	
78h	x	
79h	y	
7Ah	z	
7Bh	{	
7Ch	|	
7Dh	}	
7Eh	~	
7Fh		

9.5 バーコードタイプ

バーコード	16 進数型
Code 128/UCC/EAN-128/GS1-128	01h
Code 39/Code 32	14h
Code 11	17h
Codabar	15h
Code 93	16h
EAN-8	05h
EAN-13/ISBN	06h
ISSN	07h
UPC-E	09h
UPC-A	0Ah
ITF25	0Bh
IND25	12h
STD25	13h
MATRIX25	11h
NEC25/COOP25	10h
MSI Plessey	19h
TELEPEN	1Fh
Pharmacode One-Track	23h
TRIOPTIC	22h
QR Code/Micro QR	3Dh
PDF417/MicroPDF417	3Ch
Data Matrix (DM)	3Fh
Aztec Code	3Eh
Han Xin	43h
MaxiCode	40h
DotCode	45h
GM	44h
Codablock A	26h
Codablock F	24h
GS1 DataBar/RSS	1Ah

次のページに続く

表 4 – 前のページからの続き

バーコード	16 進数型
郵便番号	25h
OCR	46h
HONG KONG 2 of 5/CHINA POST	20h
すべてのコード	FFh